

電電'有個人2000万

72年から18年間 献金

関西電力で政界工作を長年担った内藤千百里・元副社長(91)が朝日新聞の取材に応じ、少なくとも1972年から18年間、在任中の歴代首相7人に「盆暮れに1千万円ずつ献金してきた」と朝日新聞に証言した。政界全体に配った資金は年間数億円に上ったという。原発政策の推進や電力会社の発展が目的で、「原資はすべて電気料金だった」と語った。多額の電力マネーを政権中枢に流し込んでいた歴史を当事者が実名で明らかにした。 ▶2面=田中角栄氏「頂いたよ」

A close-up, black and white photograph of a man's face. The man has dark, wavy hair and a prominent mustache. A pair of round-rimmed glasses rests on his nose. He is wearing a light-colored, possibly white, shirt with a visible checkered collar. The lighting is dramatic, casting deep shadows on one side of his face.

内蔵王百里元重社昌が証言

内藤氏が献金したと証言した7人は、田中角栄、三木武夫、福田赳氏、大平正芳、鈴木善幸、中曾根康弘、竹下登の各元首相（中曾根氏以外は故人）。内藤氏は77年に京大経済学部を卒業し、関電前身の原義量社長（故人）の秘書になり、政財界とのパイプ役である政治担当を約30年間務めた。2013年12月から今年7月にかけて69時間取材に応じ、11年3月の東京電力福島第一原発の事故について「政府の対応はけしからん」「長年樂いてきた政・官・電力の関係に問題があつた」と指摘したうえ、多額の政治献金を電気料金で賄つた仕組みや政財界と親密な関係を築いたことを語った。

内藤氏は「関電には吉原さんが直接、総理大臣や党の実力者に配る資金があつた。トヨブシーカレットだった」と証言。首相や自民党有力者らに毎年2回、益々のあいさつと称して各200万～1千万円の現金を運ぶ慣行があつたと明かし、授受の様子や政治家の反応を細かく語った。

当時は政治家個人への企業献金は法律で禁止されていながら、電力各社は74年、「政治献金分まで電気料金を支払いたくない」という世論の高まりを受けて企業献金の廃止を宣言。内藤氏は当時の業界は「そんなことを出来るわけがない」と語った。

もう、勃發した。勝大な戦
争は、筋力戦であり、消耗戦であ
る。描いた戦争ノンフィクシ
ョン・ラ・タックマンの『八月
二十日、フランス、英國の將
士たち立派なひげを蓄えてい
る。巻頭の何枚かの写真が
ヨーロッパの時代のなせる業なのだろう
のは察じえない。実はこの大
文化史の上でも一つの画期
的らしい。開戦からしばらく



ルのたびに改正を義務化され、リクルート事件や東京佐川急便事件を受けた。99年までは政治資金収支報告書に記載していれば問題ないが、記載の有無は企業・団体献金が禁止され確認できなかつた。

政治小説

超えるべき対象だった東電の事故は、裏方仕事が国家のために役立つと信じてきた彼の価値観を画期的に変えたのだろう。電力を各地域の独占企業が担い続いているのか。この告白は業界への戒めであり、世論への問い合わせだ。

唱えた米国史は、独裁の象徴的な以後の大統領は戦場にいた。兵士の死があり、結果たゞらう認

松嶺 ウィルソンはひげがなく、久著『ひげの日本近現代』のひげの有無に競争と平和を比べて見る。ウィルソンは頭にひげはない。当時、米国は大量の安全カニンコを送り、毎日ひげをそる習慣が広まってひげなしの男性が増え、あるそつだ▶もがくべ、ひがいは好戦的だったり威圧的だった。1912年1月7・28



関西電力の政治献金について明かす内藤千百重氏=2日、大阪市北区、竹花徹朗撮影

大 うえ、多額の政治献金を電 気料金で賄つた仕組みや政 官財界と親密な関係を築い 企業献金の廃止を宣言 内藤氏は当時の業界は「そん なことを出来るわけがな

電力は電気料金を使ってある行為だ。

あり、世論くの間にかけだ。

好戦的だったり威圧的だ
7.28